

平成 23 年 7 月 28 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ア ル バ ッ ク
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 諏 訪 秀 則
 (コード番号:6728 東証一部)
 問 合 せ 先 取 締 役 経 営 企 画 室 長 本 吉 光
 (TEL. 0467-89-2033 大代表)

特別損失(減損損失)の計上、業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 23 年 7 月 28 日開催の取締役会において、平成 23 年 5 月 12 日公表の「平成 23 年 6 月期第 3 四半期決算短信」で未定としておりました平成 23 年 6 月期の業績予想及び配当予想について、下記のとおり決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失(減損損失)の計上について

当社マテリアル事業及びアルバック成膜株式会社(当社連結子会社、以下、アルバック成膜)の保有する固定資産の一部について減損の兆候が認められたため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき当該固定資産の回収可能性について慎重に検討を行った結果、マテリアル事業で 4,611 百万円、アルバック成膜で 1,171 百万円(のれんの減損 341 百万円含む)の減損損失をそれぞれ特別損失に計上することといたしました。

当社マテリアル事業は、主に液晶ディスプレイ用スパッタリングターゲット材料の生産を行っており、液晶業界の拡大にあわせ生産設備の投資を行ってまいりましたが、パネルメーカーの減産や販売価格引き下げ圧力にコストダウンが追いつかない状況が継続し、収益の悪化が続いておりました。このような状況から、本事業に係る固定資産について、減損の兆候が認められたため、将来キャッシュ・フローに基づく回収可能性を検討いたしました結果、減損損失を計上することといたしました。当社といたしましては、今後マテリアル事業を継続するため、一部の不採算商品からの撤退、人員削減や生産効率の更なる向上を実施し、収益性の改善を図りました。

また、アルバック成膜は、主に半導体及び液晶ディスプレイ用マスクブランクスなどを生産しておりますが、経営環境の悪化により損失計上が続いております。そのため、生産ラインの統廃合など生産設備の集約化、人員削減などを実施することで、収益性の向上を図りました。

2. 業績予想の修正について

(1)平成 23 年 6 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 22 年 7 月 1 日～平成 23 年 6 月 30 日)

単位:百万円

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益 (円)
前 回 発 表 予 想 (A)	—	—	—	—	—
今 回 修 正 予 想 (B)	232,000	1,900	1,500	△8,700	△176.31
増 減 額 (B-A)	—	—	—	—	—
増 減 率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考)前期通期実績 (平成 22 年 6 月期)	221,804	4,809	4,942	2,138	46.60

(2)業績予想修正の理由(平成 23 年 6 月期通期連結業績)

通期連結業績予想につきましては、東日本大震災の影響被害により合理的な算定が困難であったため未定としておりましたが、最近の状況及び業績の動向等を踏まえ、上記のとおり業績予想を公表いたします。

売上高は、スマートフォン関連やタブレット PC などの販売が好調な恩恵を受け、FPD 製造装置、半導体製造

装置、コンポーネントなどが堅調に推移し、232,000 百万円(平成 23 年 1 月 27 日時点での予想売上高は 230,000 百万円)になる予定です。

一方、営業利益につきましては、コストダウン、受注獲得などで収益性の向上を図ってまいりましたが、東日本大震災の被害に対する復旧費用、PV(太陽電池)及びマテリアル事業の業績の悪化などにより、1,900 百万円(平成 23 年 1 月 27 日時点での予想営業利益は 5,700 百万円)になる予定です。

具体的には、PV 製造装置においては、結晶系や化合物系太陽電池に対して薄膜シリコン系太陽電池の価格優位性が薄れ、投資意欲が減退し、厳しい状況が続きました。また、液晶ディスプレイ用スパッタリングターゲット材料中心のマテリアル事業においては、大型液晶 TV 市場の低迷によるパネルメーカーの減産の影響で売上高が減少、加えて、販売価格の低下にコストダウンが追いつきませんでした。

当期純利益につきましては、特別損失として、平成 23 年 3 月 11 日に発生いたしました東日本大震災の被害による損失 3,419 百万円に加え、上記1項のとおり、当社マテリアル事業及びアルバック成膜における減損損失を計上するため、8,700 百万円の損失(平成 23 年 1 月 27 日時点での予想当期純利益は 400 百万円)になる予定です。

3. 配当予想の修正について

(基準日)	年間配当金		
	第 2 四半期末	期 末	年 間
	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想	—	—	—
今回修正予想	—	0.00	0.00
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 6 月期)	—	21.00	21.00

(配当予想の修正の理由)

平成 23 年 6 月期の配当予想につきましては、東日本大震災の被害により合理的な業績予想の算定が困難であったため未定としておりましたが、業績予想の算定に伴い、上記のとおり配当予想を公表いたします。

当社は、株主の皆様への利益配分を最も重要な政策の一つと認識し、連結配当性向を主要な指標と位置付けております。連結業績や財務体質の強化などを総合的に勘案のうえ、業績に連動する配当の考え方を取り入れ、連結当期純利益の約 20%の配当性向を維持するよう努力する方針としております。

当期におきましては、平成 23 年 3 月 11 日に発生いたしました東日本大震災の被害による損失 3,419 百万円に加え、マテリアル事業で 4,611 百万円、アルバック成膜で 1,171 百万円の減損損失を特別損失に計上することから、大幅な当期純損失になる予想となりました。

このため、誠に遺憾ではございますが、期末配当を見送りとさせていただきます。株主の皆様にはご迷惑をお掛けいたしますが、業績の更なる回復に向け経営努力を重ねてまいりますので、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

4. 役員報酬等の減額について

業績の下方修正及び配当見送りに対する経営責任を厳粛に受け止め、株主各位の信頼回復に努める決意を明確にするため、取締役の役員賞与の支給を行わない旨を決定したことに加え、以下のとおり役員報酬の減額を実施することといたしましたのでお知らせいたします。

また、監査役(常勤)より監査役報酬の自主返上の申し入れがありましたので、併せてお知らせいたします。

(1) 役員報酬の減額の内容

代表取締役及び取締役副社長	: 役員報酬月額30%を減額
専務取締役	: 役員報酬月額20%を減額
取締役(常勤)	: 役員報酬月額10%を減額
監査役(常勤)	: 取締役(常勤)と同額を返上

(2) 期間 平成23年8月～11月(4ヶ月)

(注)上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

以 上